



**平成24年12月期 第2四半期
決算説明資料
(2012年度)**

2012年7月31日

昭和シェル石油株式会社

注意事項

この資料には、当社グループ(当社及び連結子会社)の将来についての計画や戦略、業績に関する予想、見通しの記述が含まれています。

これらの記述は、本資料の発表日現在における情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

従いまして、経済情勢や市場動向、並びに為替レートの変動等の要因により記載の予想数値とは異なる結果となる可能性がありますので、予めご了承下さい。

決算ハイライト(1-6月累計)

■ 原油価格と為替レート

		2011年度 実績	2011年度 1-6月実績	2012年度 1-6月実績
ドバイ原油価格	(USD/バレル)	106.3	105.8	111.3
為替レート	(¥/USD)	79.8	82.0	79.8
	(¥/EUR)	111.1	115.0	103.5

■ 連結損益計算書ハイライト

(百万円)	2011年度 1-6月実績	2012年度 1-6月実績	増減	前年同期比(%)
売上高	1,380,935	1,310,887	-70,048	-5.1%
営業利益	67,642	-10,875	-78,517	-
営業外損益	1,176	-1,626	-2,803	-
経常利益	68,818	-12,501	-81,320	-
※在庫影響	38,491	-6,287	-44,779	-
※CCSベース経常利益	30,326	-6,214	-36,540	-
特別損益	2,800	1,109	-1,691	-60.4%
当期純利益	37,244	-12,590	-49,835	-

【注】カレント・コスト・オブ・サプライ(CCS)ベースの収益: たな卸資産の評価の影響を除いた原価を用いて算出する収益

セグメント情報

■ 平成24年度 1-6月期

(百万円)	石油事業	エネルギー ソリューション事業	その他	調整額	合計
売上高	1,276,871	29,416	4,599	-	1,310,887
営業利益	470	-12,041	722	-25	-10,875

■ 平成23年度 1-6月期

(百万円)	石油事業	エネルギー ソリューション事業	その他	調整額	合計
売上高	1,355,252	20,913	4,769	-	1,380,935
営業利益	77,572	-10,811	888	-8	67,642

- ・石油事業： 揮発油、ナフサ、灯油、軽油、重油、潤滑油、LPG、アスファルト、化成品等石油製品等の製造・販売
- ・エネルギーソリューション事業： 太陽電池モジュールの製造・販売及び電力の卸供給
- ・その他： 不動産、建設工事、自動車用品の販売及びリース業等

収益状況(1-6月)

- 平成24年第2四半期連結累計業績は、売上高13,108億円(前年同期比5.1%の減収)、経常利益▲125億円(同813億円の減益)となりました。また、たな卸資産評価の影響を除く実質経常利益(CCSベース経常利益)は▲62億円(同365億円の減益)となりました。
- 石油事業
 - ✓売上高12,768億円(前年同期比5.8%の減収)、営業利益4億円(同771億円の減益)となりました。
 - ✓前年同期と比べ、総体的に石油製品マージンが低下し、CCSベースの石油事業連結営業利益も、前年同期比で減益となりました。
- エネルギーソリューション事業
 - ✓売上高294億円(前年同期比40.7%の増収)、営業利益▲120億円(同12億円の減益)となりました。
 - ✓エネルギーソリューション事業の中核である太陽電池事業については、前年同期と比べて事業規模を拡大させるとともにコスト削減を進めています。厳しい環境が継続しているため未だ営業損失となっていますが、損失幅は前四半期対比で改善しています。

事業概況(4-6月)

■ 石油事業

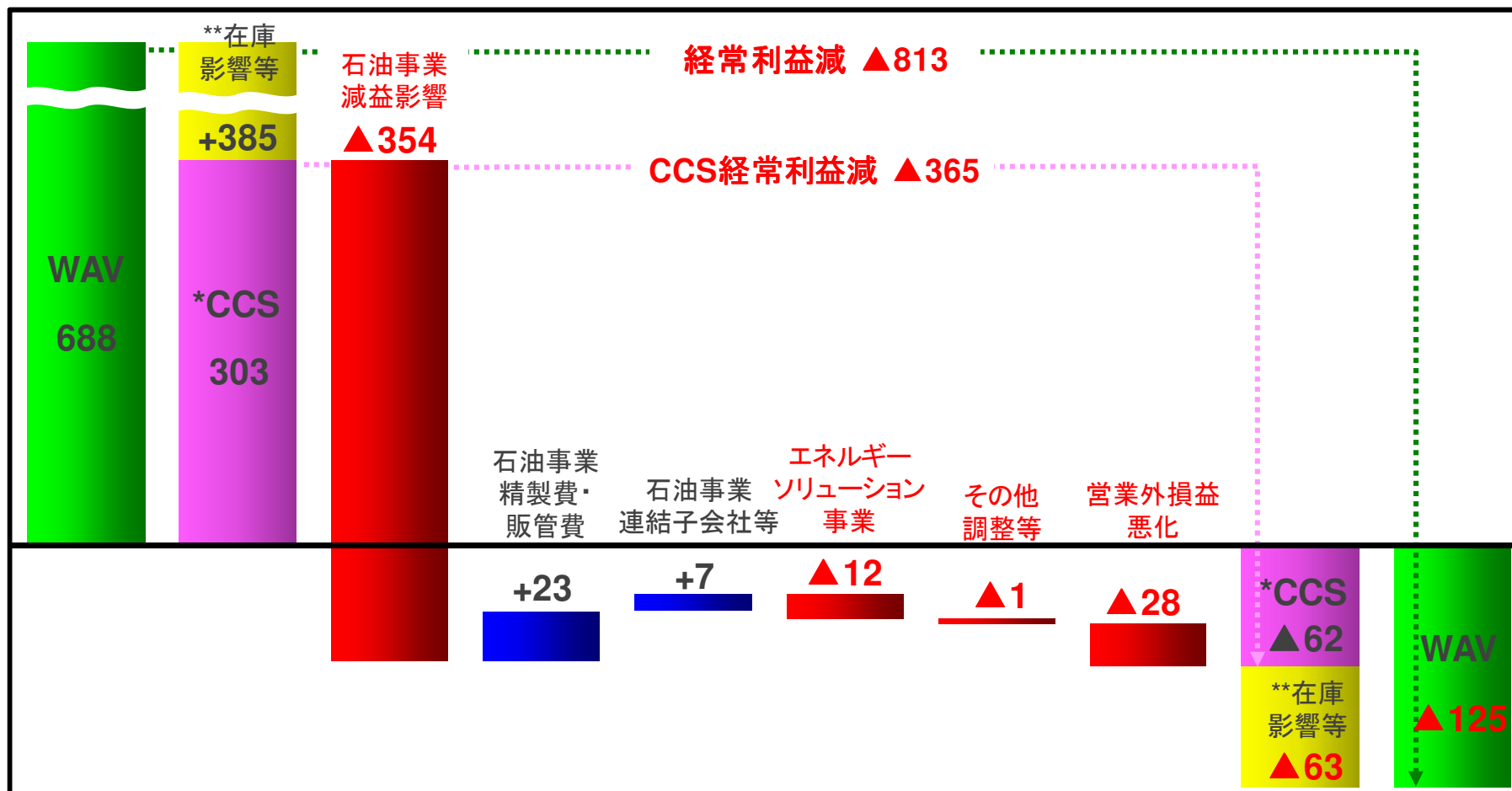
- ✓国内販売数量は全油種合計で前年同期を下回りましたが、これは昨年固有の要因である東日本大震災後の災害対応によるものが主な理由であり、これを除けばほぼ前年並みの販売数量となりました。輸出数量については、2011年9月の扇町工場閉鎖に伴い、減少しました。
- ✓市況については、第2四半期において原油価格とほぼ同時に製品市況が急落したことによって、実原油コストの製品価格への適切な転嫁が困難となり、石油製品マージンは前年同期比で悪化しました。
- ✓一部製油所における装置トラブルにより、一時的な費用が発生し、収益下押し要因となりました。

■ エネルギーソリューション事業(太陽電池事業)

- ✓主力の宮崎第3工場(国富工場)は、下半期の需要増に備え、操業効率強化に向けて整備を実施しました。製品出力も上昇基調にあり、当社想定に沿った生産の推移となりました。
- ✓原材料調達費の低減など、引き続きコスト削減を進めました。
- ✓販売については、国内外ともに前年同期比で大幅に拡大しましたが、国内の再生可能エネルギー全量買い取り制度の詳細決定遅れにより、当初想定した販売数量の一部が第3四半期以降へずれ込むこととなりました。今後、国内では需要の大幅な増加が見込まれています。
- ✓販売価格は依然として下降傾向にありますが、下落速度は前年比で大幅に鈍化しています。

要因分析(1-6月)

(単位:億円)



2011年

2012年

* CCS: Current Cost of Supply (在庫評価の影響を除いたもの)
 ** 「在庫影響等」には、たな卸資産の簿価切下げによる影響を含む。

原油処理実績と販売数量実績(1-6月累計)

■ 原油処理実績と稼働率

		2011年度 実績	2011年度 1-6月実績	2012年度 1-6月実績
原油処理実績	(千KL)	26,212	13,810	10,342
稼働率	(%)	93.2%	93.2%	90.5%

■ 製品別販売数量

(千KL)	2011年度 1-6月実績	2012年度 1-6月実績	前年同期比
揮発油	4,515	4,267	- 5.5%
ジェット燃料	1,000	1,103	+ 10.3%
灯油	1,669	1,537	- 7.9%
軽油	2,490	2,391	- 4.0%
A重油	854	842	- 1.5%
C重油	806	971	+ 20.4%
その他	2,139	1,989	- 7.0%
輸出	1,888	261	- 86.2%
合計	15,361	13,360	- 13.0%

平成24年12月期連結業績予想

■ 原油価格と為替レート的前提

		2011年度	2012年度		修正値
		実績	前回想定(2月)	今回想定	
ドバイ原油価格	(USD/バレル)	106.3	110	108	-2
為替レート	(¥/USD)	79.8	77	80	3
	(¥/EUR)	111.1	100	102	2

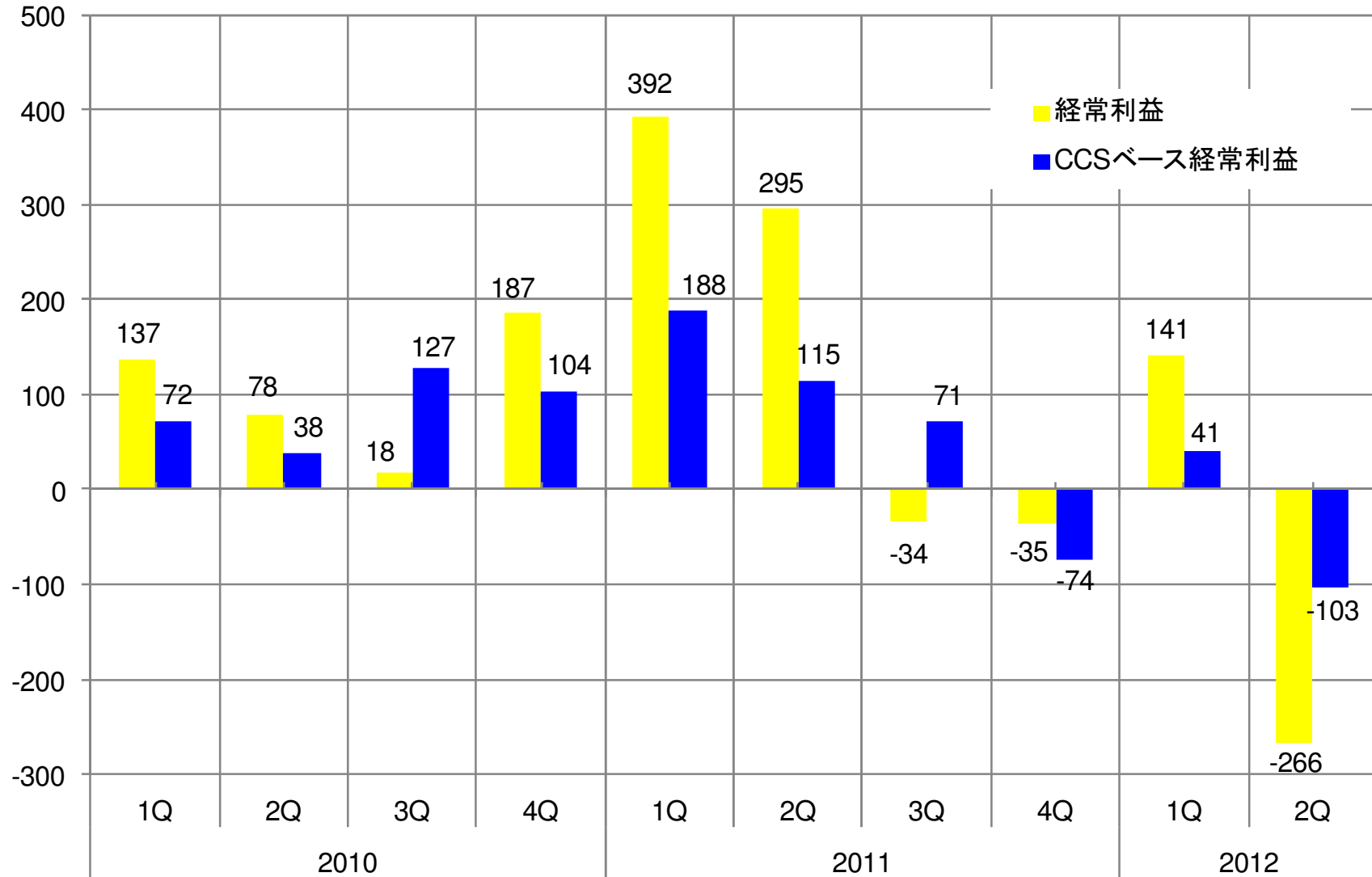
■ 連結業績予想

(百万円)	2011年度	2012年度		修正値
	実績	前回予想(2月)	今回修正予想	
売上高	2,771,418	2,630,000	2,620,000	-10,000
営業利益	60,288	31,000	8,000	-23,000
経常利益	61,807	30,000	5,000	-25,000
※在庫影響	31,787	0	-5,000	-5,000
※CCSベース経常利益	30,020	30,000	10,000	-20,000
当期純利益	23,110	11,000	-4,000	-15,000

参考データ集

四半期別 経常利益の推移

単位: 億円



決算ハイライト(4-6月)

■ 原油価格と為替レート

		2011年度 実績	2011年度 4-6月実績	2012年度 4-6月実績
ドバイ原油価格	(USD/バレル)	106.3	110.6	106.2
為替レート	(¥/USD)	79.8	81.7	80.2
	(¥/EUR)	111.1	117.4	102.8

■ 連結損益計算書ハイライト

(百万円)	2011年度 4-6月実績	2012年度 4-6月実績	増減	前年同期比(%)
売上高	689,689	610,162	-79,527	-11.5%
営業利益	28,772	-25,032	-53,804	-
営業外損益	789	-1,652	-2,442	-
経常利益	29,561	-26,685	-56,247	-
※在庫影響	18,052	-16,320	-34,372	-
※CCSベース経常利益	11,509	-10,365	-21,874	-
特別損益	1,282	288	-994	-77.5%
当期純利益	16,771	-18,881	-35,652	-

【注】カレント・コスト・オブ・サプライ(CCS)ベースの収益: たな卸資産の評価の影響を除いた原価を用いて算出する収益

セグメント情報

■ 平成24年度 4-6月期

(百万円)	石油事業	エネルギー ソリューション事業	その他	調整額	合計
売上高	592,054	15,671	2,436	-	610,162
営業利益	-20,706	-4,648	334	-12	-25,032

■ 平成23年度 4-6月期

(百万円)	石油事業	エネルギー ソリューション事業	その他	調整額	合計
売上高	676,075	11,425	2,187	-	689,689
営業利益	33,679	-5,193	293	-7	28,772

- ・石油事業： 揮発油、ナフサ、灯油、軽油、重油、潤滑油、LPG、アスファルト、化成品等石油製品等の製造・販売
- ・エネルギーソリューション事業： 太陽電池モジュールの製造・販売及び電力の卸供給
- ・その他： 不動産、建設工事、自動車用品の販売及びリース業等

原油処理実績と販売数量実績(4-6月)

■ 原油処理実績と稼働率

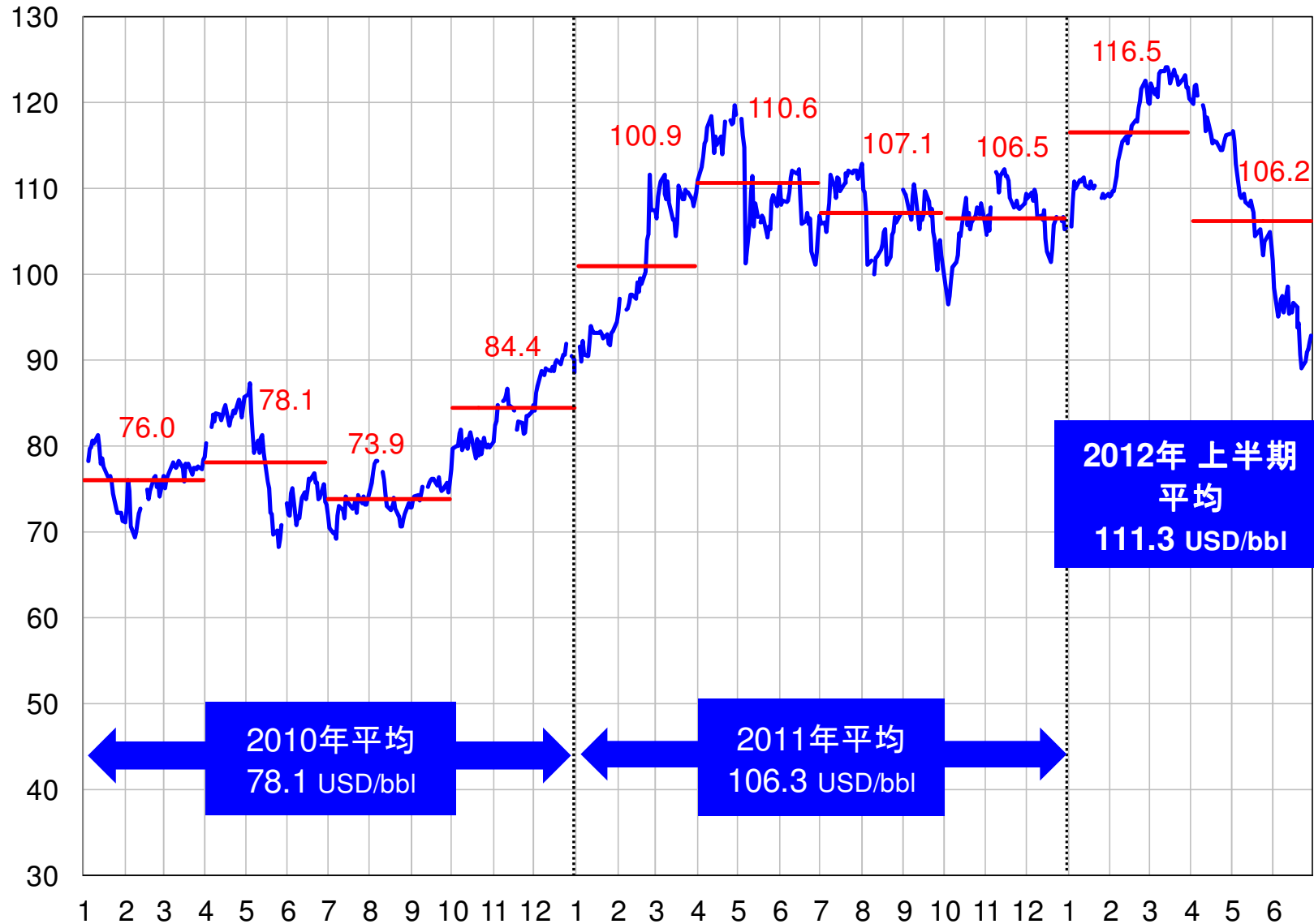
		2011年度 実績	2011年度 4-6月実績	2012年度 4-6月実績
原油処理実績	(千KL)	26,212	6,625	4,657
稼働率	(%)	93.2%	88.9%	81.5%

■ 製品別販売数量

(千KL)	2011年度 4-6月実績	2012年度 4-6月実績	前年同期比
揮発油	2,270	2,110	- 7.1%
ジェット燃料	521	569	+ 9.0%
灯油	401	312	- 22.3%
軽油	1,263	1,176	- 6.9%
A重油	342	310	- 9.3%
C重油	450	488	+ 8.5%
その他	1,012	876	- 13.4%
輸出	935	51	- 94.6%
合計	7,194	5,891	- 18.1%

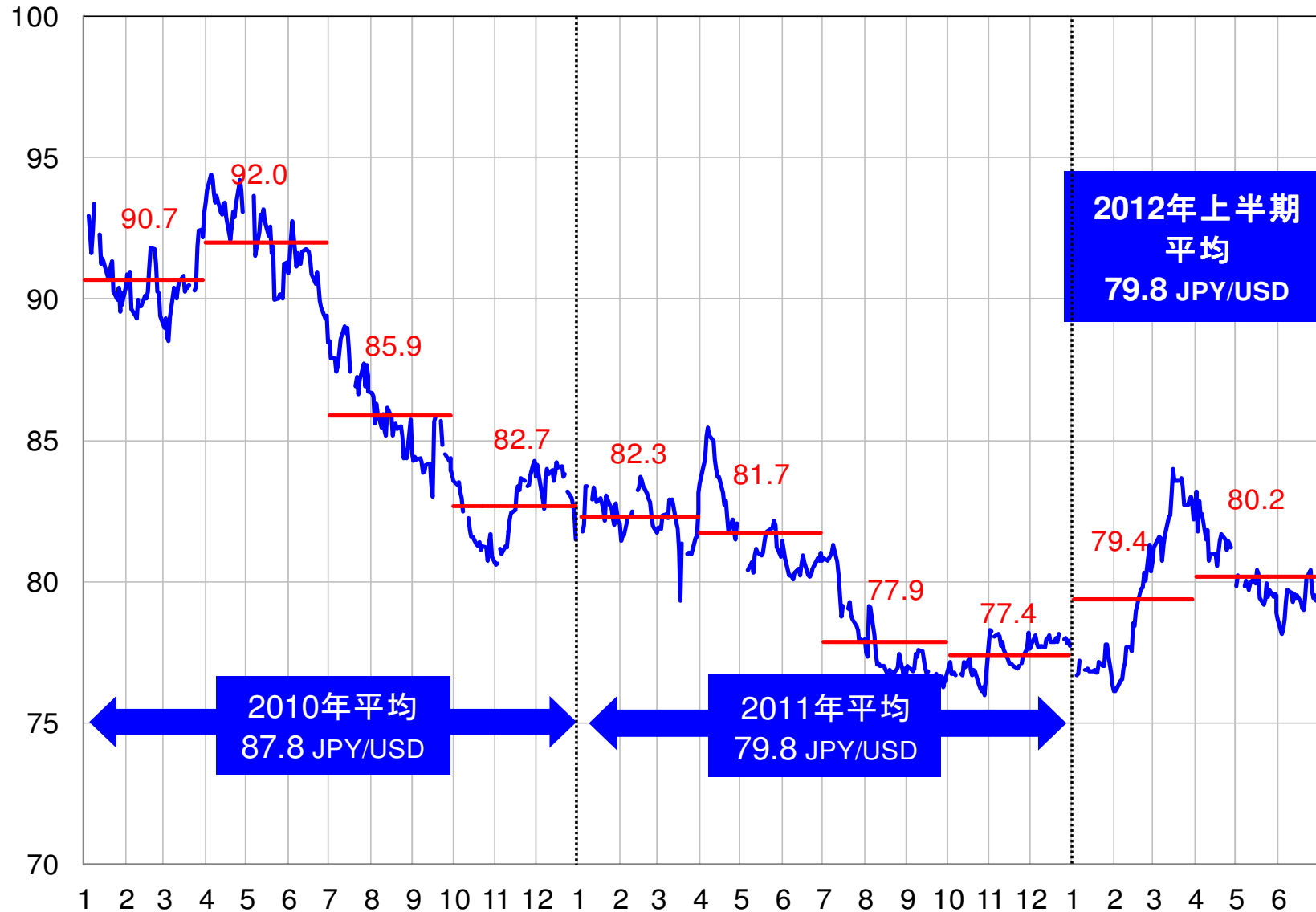
ドバイ原油価格の推移

(USD/bbl)



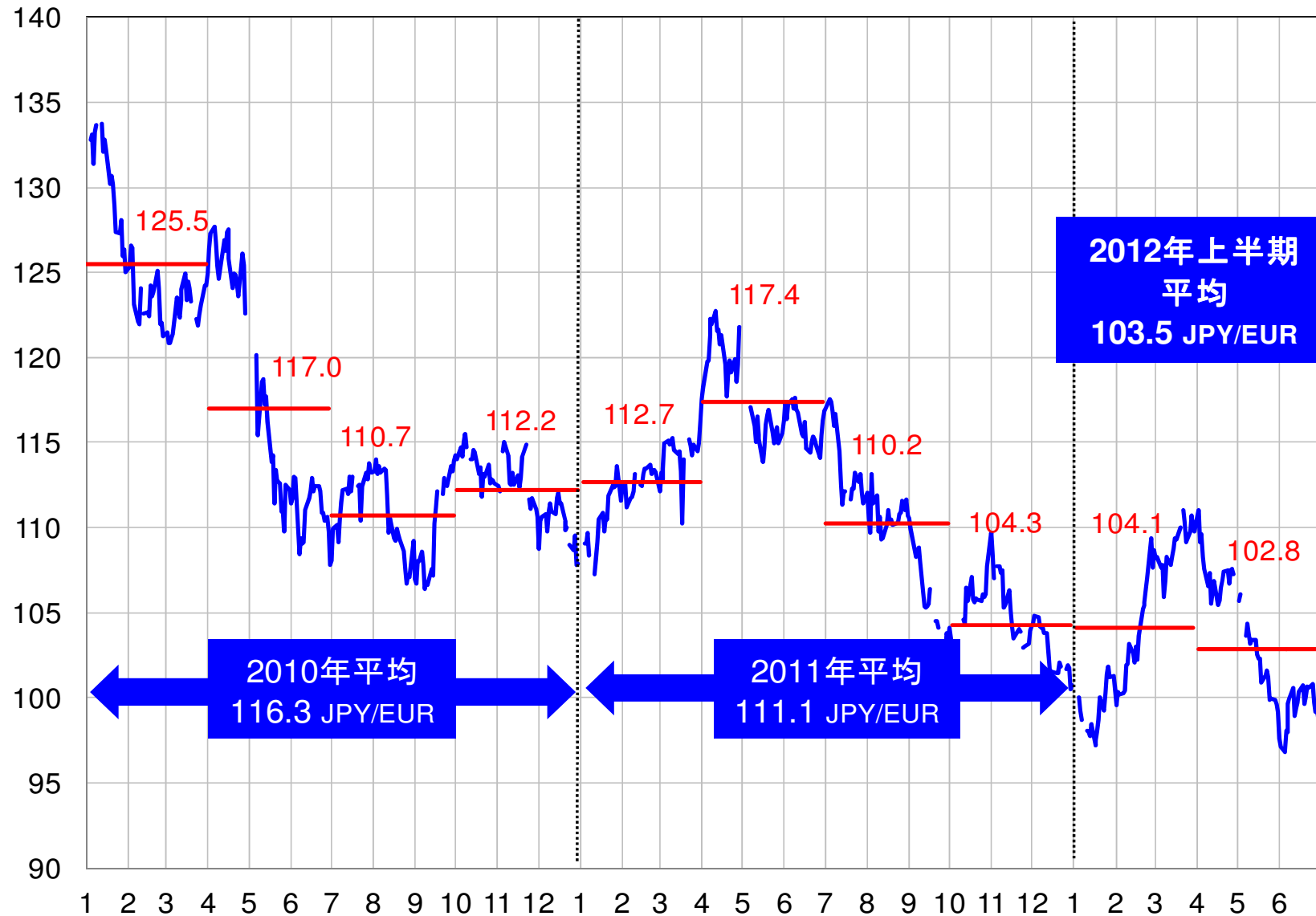
為替レートの推移(円/アメリカドル 仲値)

(JPY/USD)



為替レートの推移(円/ユーロ 仲値)

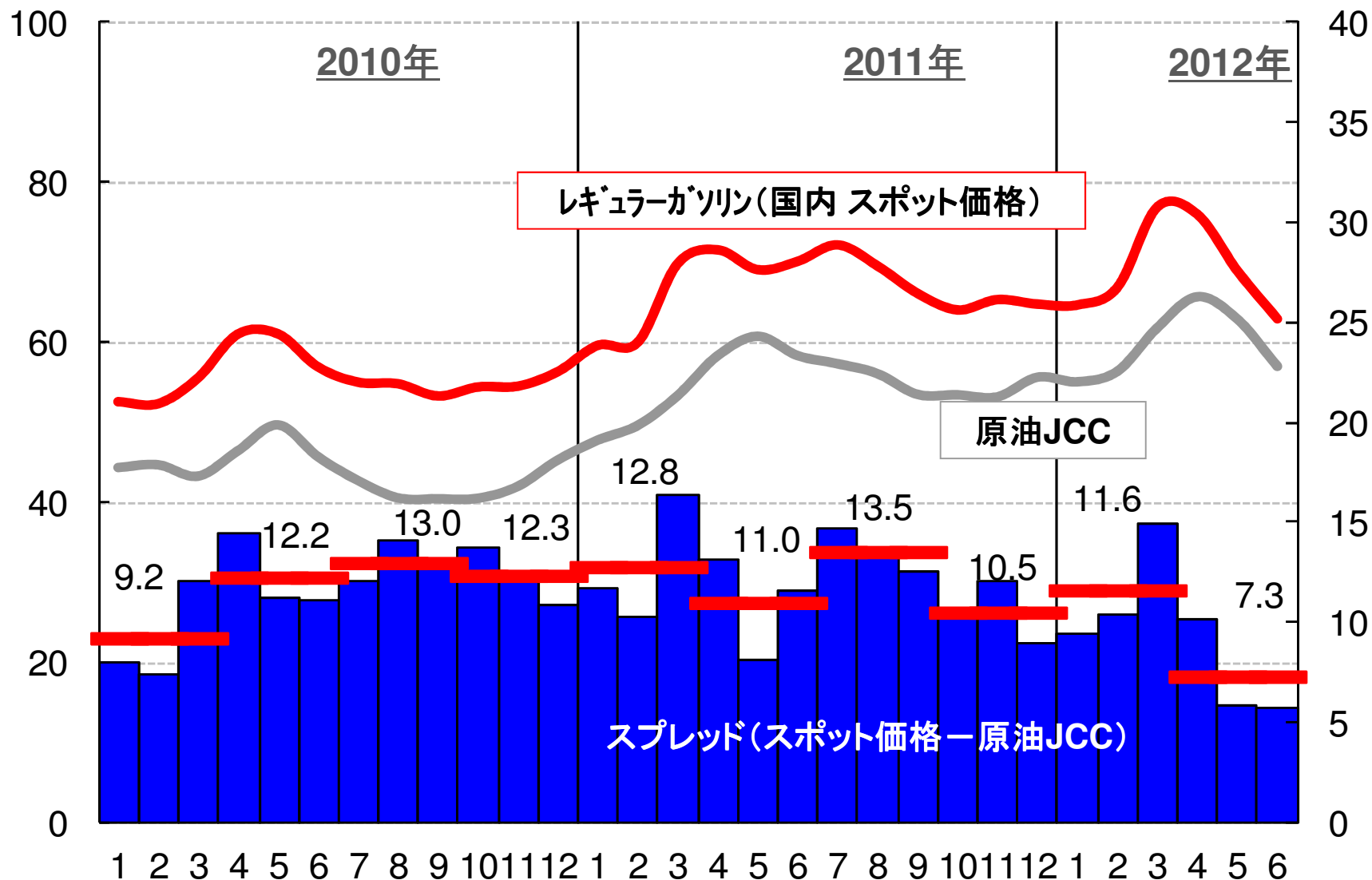
(JPY/EUR)



国内マーケットの状況①(ガソリン)

原油・製品価格 ¥/L

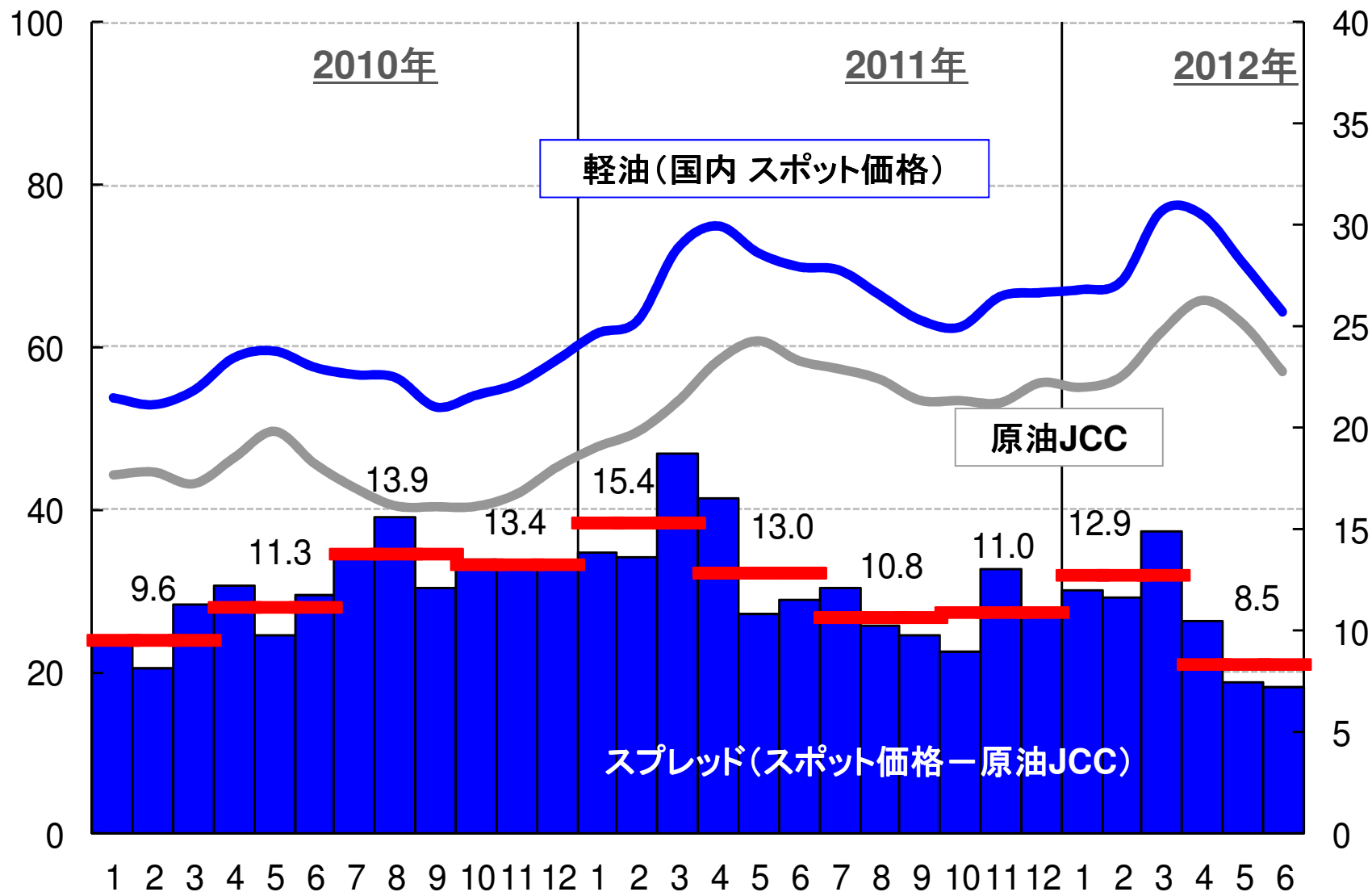
スプレッド ¥/L



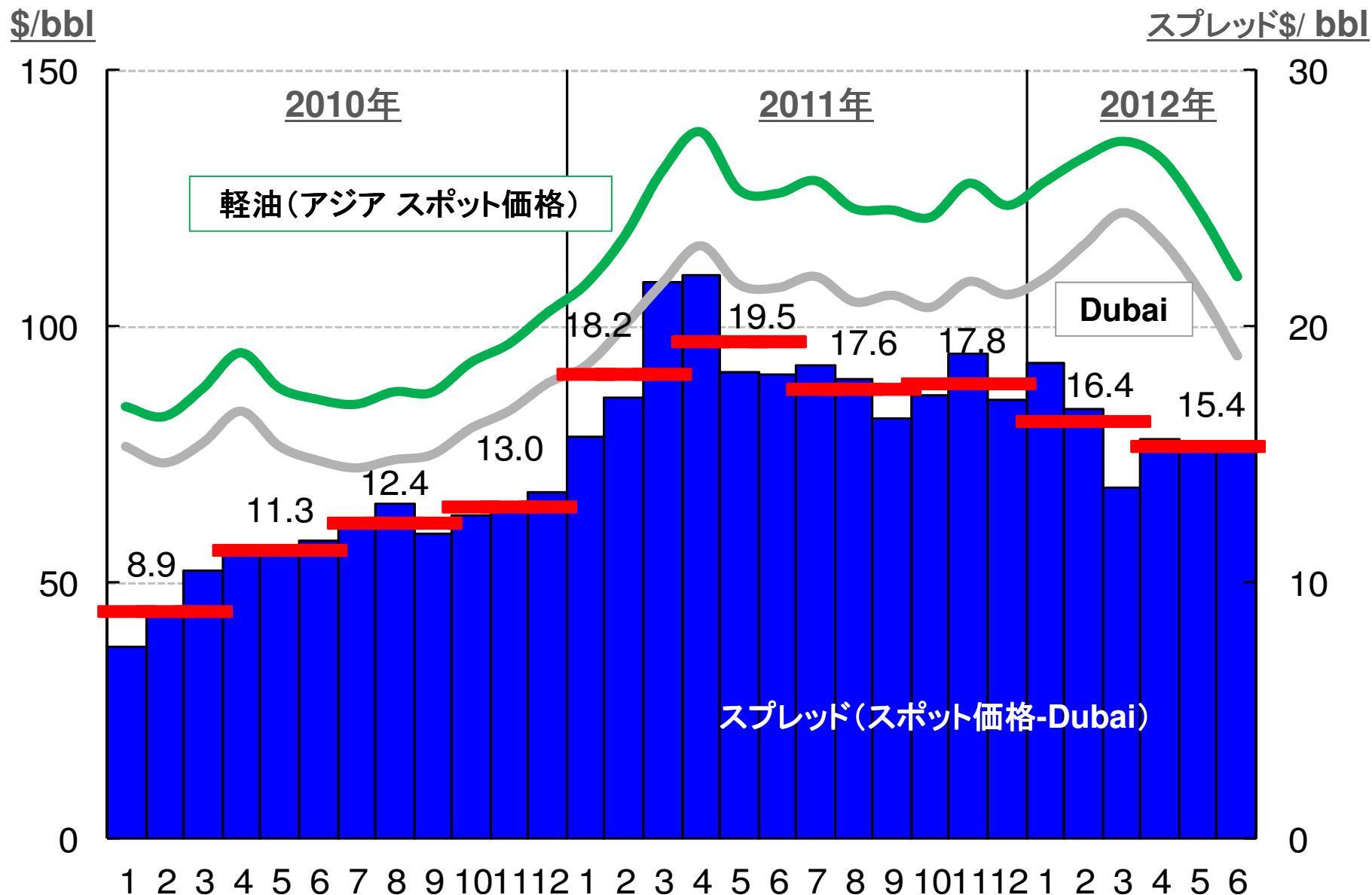
国内マーケットの状況②(軽油)

原油・製品価格 ¥/L

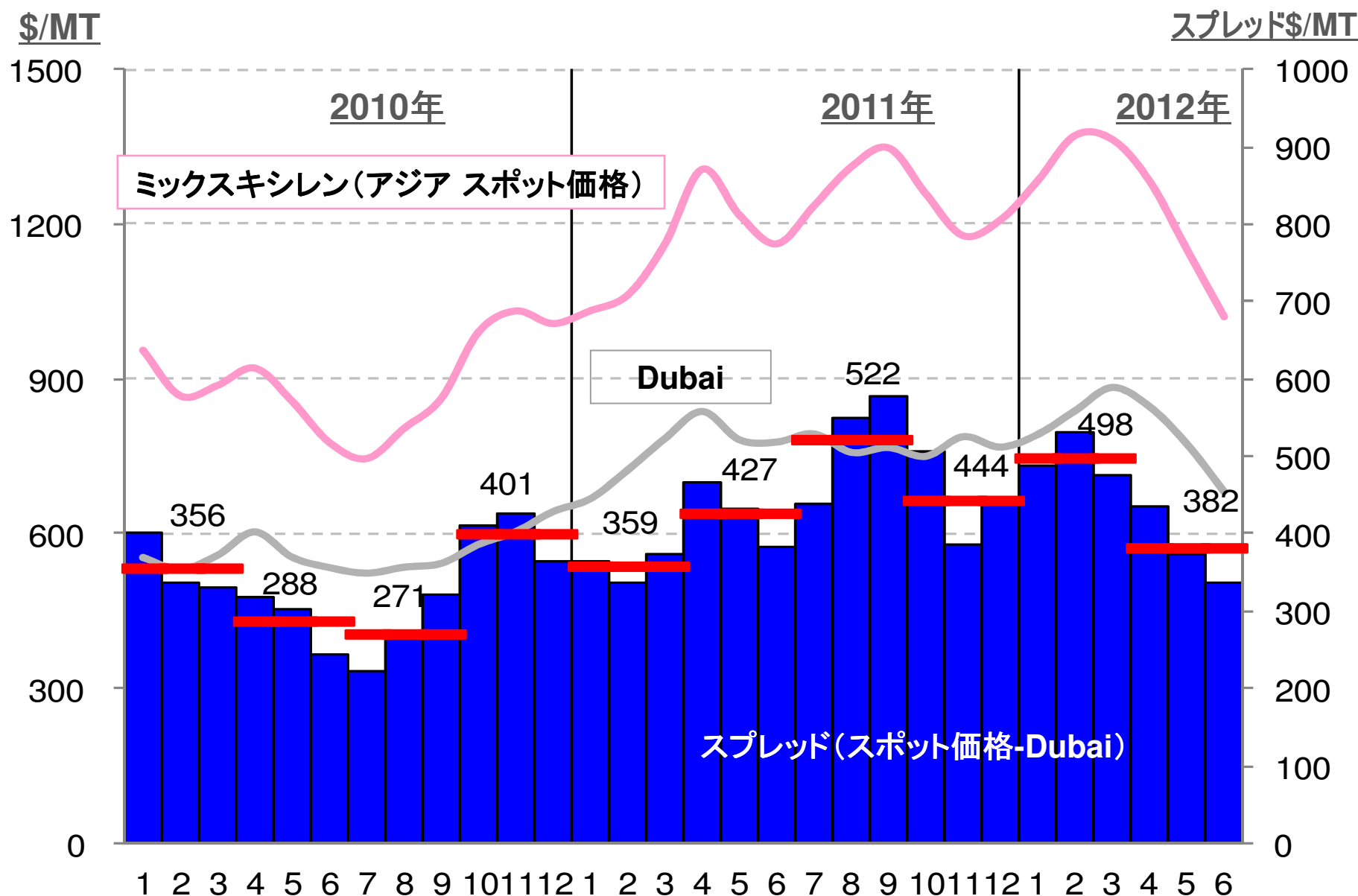
スプレッド ¥/L



海外マーケットの状況①(軽油)



海外マーケットの状況②(ミックスキシレン)



平成24年度第2四半期 ートピックスー

GS Caltex社・太陽石油株式会社と、パラキシレン事業に関わる新規プロジェクト基本覚書締結【4月】

韓国内に立地するGS Caltex社のパラキシレン(PX)プラント(年産能力135万トン)を年産235万トンまで増強する新規プロジェクトの実現に向け、協力することで合意しました。この増強が実現すると、同プラントはPXの単一工場として、世界最大の生産規模となる予定です。

PXはポリエステル基礎原料であり、中国やインドをはじめとするアジア市場において需要拡大が見込まれています。この協業を通して、石油事業のさらなる競争力強化を目指してまいります。

ソーラーフロンティア(株)、CIS薄膜太陽電池を海外の太陽光発電所に供給【4-5月】

◇米国ニュージャージー州において、パブリックサービス・エレクトリック・アンド・ガス社の太陽光発電設備「ミルクリーク・ソーラーファーム」に3.8メガワット分のCIS薄膜太陽電池を供給しました。

◇ドイツのブランデンブルク州ボホー(Bochow)でベレクトリック社の太陽光発電所に28.8メガワット分のCIS薄膜太陽電池供給しました。世界最大のシステムインテグレーターである同社とは、合弁会社ピービー・システムズ社(PV CStems GmbH)を設立し、太陽光発電設備の開発・施工・販売の分野でより一段と連携を強めています。

◇昭和シェルグループは、アブダビ国営石油精製会社タクリールおよび一般財団法人国際石油交流センターの共同事業である製油所関連施設における太陽光発電システムの導入実験事業に参画し、ソーラーフロンティアがCIS薄膜太陽電池を供給しました。

◇米国アリゾナ州の大手電力会社であるウィルソン・エレクトリック社を通じて、同州の1.5メガワットの太陽光発電所にCIS薄膜太陽電池を設置しました。



ベレクトリック社の太陽光発電所



ローソン店舗にCIS薄膜太陽電池設置へ【6月】

株式会社ローソンが全国2,000店舗のローソンの屋根に太陽光発電システムを設置することを決定し、供給元の一つとしてソーラーフロンティア(株)のCIS薄膜太陽電池が選定されました。

